

## レイヤー描画時

〔絵具量〕と〔粘り〕の値によって絵具の出方（伸び具合）が変化します（図2-A）。

- ・〔絵具量〕が高く〔粘り〕が低いと、色が長く伸び、逆に〔絵具量〕が低く〔粘り〕が高いと、すぐに色が出なくなります。（図2-A、1・4段目）
- ・〔粘り〕の値と〔絵具量〕の値を同じか近い値にしたとき、値による変化はそれほど大きくありません（粘り、絵具量ともに30%と、粘り、絵具量ともに100%の場合で比較。図2-B）。
- ・既に描画してある部分から伸ばすと、〔混色〕の値による違いが出ます。値が高いと、色の混ざるブラシになります（図2-C）。

レイヤーで透明部分に描画した場合、色がかすれていくと不透明度が低くなって（半透明のように）、テクスチャ感が出るようになります（〔粗さ〕の値を少し高めに設定している場合）。

## キャンバス描画時

〔絵具量〕と〔粘り〕のみの値変更（図2-D、1・2段め）では、レイヤー描画時ほどの違いは見られず、かなり早い段階で下地と色が混ざって選択色は出なくなります。

キャンバス上でそれなりに色を出そうとするときは、〔混色〕の値も同時に下げる必要があります。（図2-D、3段め）

〔絵具量〕が5%以下くらいになると、何故か色がよく伸びるようになります（キャンバス描画時のみ）。（図2-D、4段め）

図2-Eは、〔粘り〕と〔混色〕の値を同じにして〔絵具量〕を100%と1%にしたときを比較したものです。少し重ねるようにして描くと、1%の方が少し地色が混ざりながらも、選択色を保ったままで伸びます（当然、0%にすれば色は出なくなります）。

少し面白い描画結果になるので、キャンバス上で使う場合は色々な設定の組み合わせを試してみてもよいでしょう（混色キャメルハー、混色フラットで〔アーティストオイル〕項目を設定した場合、この絵具量5%以下という設定は効果がないようです）。

キャンバスでの色の混ざり方や混色後の発色は独特で、雰囲気のある描画になりますが、扱いが多少難しいのでレイヤーに描画した方が扱いやすくなると思います。

## ブレンドブラシとしてのアーティストオイル

〔アーティストオイル〕設定の〔絵具量〕を使ったブレンド系ブラシは、透明レイヤー上では全く白を引きずらないタイプのブラシです。

レイヤーの合成方法が「デフォルト」の場合に威力を発揮しますが、〔補充量〕を使った〔水滴〕などのブレンドブラシと比較すると、好みに合わないという場合もあるようです。次ページでは、少しでも〔水滴〕などの雰囲気に近づけつつ、「デフォルト」レイヤーでも使用できるアーティストオイルブレンドブラシの設定を考えてみました。



## 消しゴムを併用したアーティストオイルブレンド

## ① [不透明度] を下げたブレンド (図 3-A)

[アーティストオイル] は、[絵具量] を「0」にして色を伸ばしていっただけでは、乗っている色そのものが伸びていっただけで、ふんわりとしたぼかしにはなりません。

そこで、[不透明度] を下げることで最初から半透明のような状態で色が伸びるようにします。半透明になるとテクスチャが出るという利点がありますが、滑らかに見えないので、今回は [粗さ ([テクスチャ])] は「0」で使用します。

既に描画してある2色の間を滑らかにする場合は、ジグザグに伸ばしていくことで割と滑らかに伸びますが、透明部分に対して伸ばしていく場合は、縁との境界がなかなか滑らかになりません。

そこで、消しゴムとの併用を考えてみました。

## ② 縁の柔らかい [消しゴム] と併用する (図 3-B)

描画部分との境界を事前に [消しゴム] でランダムに消しておきます。こうすることで、後の [ブレンドブラシ] の描画が格段に楽になります。

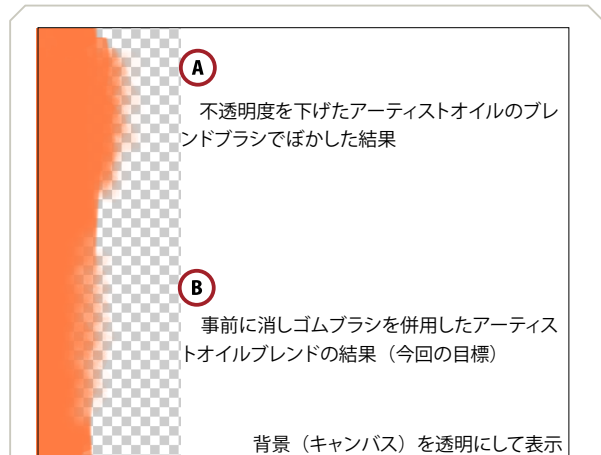
描画が2ステップになるので面倒と思われるかもしれませんが、ブレンドで伸ばすための時間が半分以下程度で済むので (個人の使用感)、全体的な作業時間にそれほど差はありません。

[消しゴム] には、[レンダリングされた円形] (12以降) を使うことで、縁の柔らかさと不透明度をより詳細にコントロールできます。また、[ジッター] ([ストロークのジッター]) を入れて、ストロークにランダム感を出します。(図 3-B の消しゴム設定)

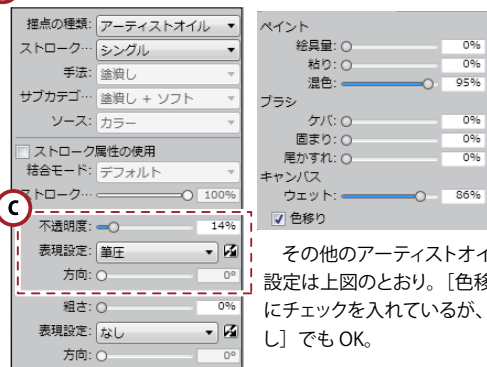
消しゴムでランダムに削った後、①で作成したブレンドブラシで円を描くようになじませていきます。(図 3-D)

テクスチャが付いてない分、[水滴] などに近い描画結果が得られるのではないのでしょうか。

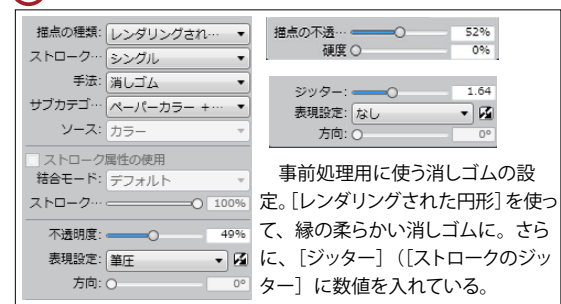
デフォルトレイヤー上で透明部分との境界を水滴のような雰囲気になじませたいけど、[下の色を拾う] チェックは使いたくない…という場合に限れば、使い道があるのではないかと思います。



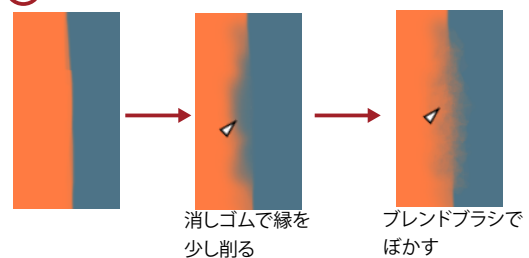
## A 不透明度を下げたアーティストオイルブレンドの設定



## B 消しゴムを併用する



## D 描画の手順 (ブレンド用のブラシはAで作成したブラシ)



## 3. アーティストオイルのブレンド

## その他の油彩系特殊ブラシ

次ページでは、アーティストオイル以外の油彩系に使われる特殊ブラシを確認してみます。

[密度] が設定できる [キャメルヘアー]、[フラット]、[プリスルスプレー]、さらに [アーティストオイル] が同